



有機農業の日

オーガニックデイ 12月8日は「有機農業の日」

特別期間中、有機農産物等を利用した学校等給食の
兵庫県内における取組を紹介します！

※特別期間：令和7年11月14日（金曜日）～12月14日（日曜日）



伊丹市立天王寺川中学校

伊丹市内の全中学校において、令和7年11月11日（火曜日）に有機ほうれん草、12月10日（水曜日）に有機米を使用した給食が提供されました。

また、伊丹市立天王寺川中学校では、11月11日の給食の取組に合わせて、有機野菜の生産者による有機農業に関する講話が行われました。



【生産者（金谷智之さん）による講話】



【有機ほうれん草を使用した給食】

加東市立加東みらいこども園

令和7年11月26日（水曜日）、加東市立加東みらいこども園において、兵庫県立社高等学校生活科学科3年生が考案した有機農産物を使用した給食が提供されました。

高校生による有機野菜の説明の後、給食を食べる園児と高校生が交流を行いました。



【園児と高校生が交流】



【高校生による有機野菜の説明】



使用された有機農産物

米・小松菜・ほうれん草・にんじん・青ねぎ・だいこん・れんこん・ごぼう・生しいたけ・さつまいも

上郡町陽光こども園

令和7年11月27日（木曜日）、上郡町の陽光こども園において、有機イベント「わくわくオーガニックinようこう」が開催されました。

親子で有機農業の紙芝居を観た後、有機農業で作られたお米の試食を行いました。

【紙芝居後はたくさん手が挙がりました】



【紙芝居】

（上郡町有機農業推進協議会作成）



【親子でお米の試食】

多可町立中町南小学校

令和7年12月8日（月曜日）、多可町立小学校5校、中学校3校、県立北はりま特別支援学校において、有機農産物（米・だいこん・青ねぎ・じゃがいも）を使用した給食が提供されました。



【宮崎さんのお話】

中町南小学校では、有機農産物の生産者による有機農業、農作業について説明が行われました。



【有機米】

キラ☆
現場にて

土を探究し花の魅力を発信！



《たつの市 土遊ぶ農園 黒田恒平さん・麻衣子さん》

たつの市で菊やヒマワリを始めとした切り花を中心に、さつまいもなど季節野菜の栽培や養鶏を行っている土遊ぶ農園の黒田恒平さん、麻衣子さんご夫妻を訪問し、お話を伺いました。

－就農したきっかけは？－

農業に携わるきっかけとなったのは、大学での土の研究です。大学卒業後、種苗会社に就職し、花の魅力を学びました。その後、2016年に兵庫県たつの市に移住し、本格的に営農を開始しました。

－大事にしていることは？－

農園名の「土遊ぶ」は、「土の遊びの部分」である土の緩衝能を意味しています。私たちが今後も土に対して科学的に考察し、効率的かつ持続可能な農産物生産をしていきたいという思いを込めています。

(平飼いの岡崎おうはん)



花栽培では、見た目や花持ちのよい高品質な花を需要のある時期に作ることを大切にしており、新しい品目・品種を積極的に導入しています。

また、栽培するだけでなく、花がある豊かな生活を提案していきたいと考えています。

野菜は、旬の時期に、自分がおいしいと感じる品種を選び、できるだけ新鮮な状態で食べてもらうことを目指しています。

養鶏は、「岡崎おうはん」という品種を平飼いで育てています。始めたばかりですが、試行錯誤しながら、数を増やして、軌道にのせていきたいです。

－今後の展望は？－

夫婦ともに大学で土壌学を学んでおり、発酵させた廃菌床や鶏糞、牛糞を利用した堆肥作り等に関心があるので、循環型農業を目指していきたいです。

また、シカやイノシシ等のジビエを有効活用できるような方法を考えたり、多くの人に農業の現実を知ってもらえるよう、地域との連携や学生との関わり、SNSなどを通じた情報発信をしていきます。



土遊ぶ農園Instagram>>>



(土遊ぶ農園の皆さん)



(収穫中の小菊)

解説！ 基本計画

2027年に国際園芸博覧会が開催されますが、基本計画の「花き」の取組を教えてください。

切り花の1世帯あたり年間購入額は、ホームユース需要や、サブスクリプション等の購入方法の多様化を背景に、新型コロナウイルスの影響から回復傾向にあります。特に、成人式や卒業式のSNS掲載用にボリュームのある花束等を添える傾向があることから、29歳以下の購入額が増加しています。

農林水産省では、これら需要の変化に対応するため、生産基盤の強化を図るとともに、高品質な国産花きの輸出促進、花育の推進に取り組み、花の振興を図っているところです。

また、2027年（令和9年）に横浜で開催予定の国際園芸博覧会（GREEN×EXPO2027）の機運醸成に向け、農林水産省公式YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF」を通じて花の魅力を発信しています。



BUZZ MAFF



GREEN x EXPO2027

副地方参事官



水稻の総合防除（IPM）の普及推進に向けたオンラインセミナーを開催しました



総合防除を呼び掛ける阿部地方参事官

近畿農政局兵庫県拠点、令和7年11月12日(水)、オンラインセミナー「水稻の総合防除（IPM）の普及推進」を開催し、県内外から、農業者、生産者団体、自治体等合わせて100名を超える参加がありました。

近年、病害虫の侵入・まん延リスクが高まる中、化学農薬だけに頼らない「予防・予察」に重点を置いた「総合防除（IPM）」の取組拡大が重要となっており、本セミナーは、防除技術の研究開発及び実証等を紹介することで、総合防除への認知を広め農産物の安定的かつ効率的な生産に繋げていただけるよう開催したものです。

当日は、農林水産省や兵庫県から総合防除の概要や考え方、推進体制の説明があった後、国の研究機関である農業・食品産業技術総合研究機構からは、現在開発中の「アプリを活用した病害虫発生予察」について、兵庫県の研究機関である農林水産技術総合センターからは、現在実践している「ウンカやスクミリンゴガイへの総合防除」や「イネカメムシ対策の取組」について、ご講演をいただきました。

参加者からは「総合防除は、環境への負荷の低減ではなく、情勢の変化に対応した防除の姿という考え方が参考になった」「イネカメムシの習性を検討する材料となった」などの感想があり、関心の高さが窺えました。

兵庫県拠点は今後も関係機関と連携し、情報発信を行います。

当日の資料は
こちらから ▼



取組の紹介

環境保全に配慮した農業に取り組む農家さんのご紹介

こばし すえとし
Hope Farm 小橋 季敏さん

—都市と農村のつながりを大切に農業の未来を切り拓く—

江戸時代から続く農家である小橋家が、1975年にHope Farmとして創業。当時、丹波市（旧市島町）を中心とした生産者グループと阪神地域との消費者団体との直接取引を行っており、季敏さんが2004年に継承しました。

創業当時から環境に配慮した農業に取り組み、2008年には有機JAS認証を取得し、本年みどり認定も受け、有機農業等に取り組んでいます。

地元の養鶏場で作られた発酵鶏糞をたい肥として使用し、有機栽培や特別栽培により米（コシヒカリ）のほか、小麦、丹波地域の特産物である丹波黒大豆・丹波大納言小豆も生産しています。

収穫したコシヒカリは、「喜舞（きまい）」と名付けて販売しています。また、小麦や黒大豆からは、加工品のうどんや黒豆茶も委託製造し販売しています。

現在、丹波市有機の里づくり推進協議会会長や丹波農業グランプリ副会長等を引き受け、牛舎跡を改装し、昔の農機具を常設展示して農機具使用体験を行うなど有機農業の普及や食の安全・安心を心掛け、都市と農村に住む人のつながりを大切に活動されています。

生産した農産物や加工品は、直接消費者に配達するほか、農業協同組合、地元の道の駅及び自然食品の店で販売されています。



小橋 季敏さん

簡単な経営概況

水稻 5 ha
 (有機JAS栽培 3 ha
 特別栽培 2 ha)
 小麦 1 ha
 大豆・小豆 2 ha
 ※小麦、大豆・小豆は、
 有機JAS栽培の水稻と
 2年3作で栽培。



有機栽培米



加工品



Hope Farmホームページ

みどり認定とは？

みどりの食料システム法（環境と調和のとれた持続可能な食料システムの確立を目指す法律）に基づき、化学肥料・農薬の使用低減などに取り組むための計画を作成し、都道府県知事から認定を受ける制度。

2025年農林業センサス結果の概要（概数値）を公表

～個人経営体の大幅な減少が続く中、法人経営体は増加～

近畿農政局は、2025年農林業センサス結果の概要（概数値）（令和7年2月1日現在）について、近畿の結果をとりまとめましたのでお知らせします。

【調査結果の概要】

近畿における農業経営体数は8万1,975経営体で、5年前に比べ21.1%減少しました。
農業経営体のうち、個人経営体は7万8,708経営体で、5年前に比べ21.9%減少しました。
一方で、法人経営体は2,350経営体で、5年前に比べ18.3%増加しました。

詳細はこちら▼



兵庫県の農業経営体数

農業経営体数は3万419経営体で、5年前に比べ20.6%減少しました。
農業経営体のうち、個人経営体は2万9,108経営体で、5年前に比べ21.6%減少しました。
一方で、法人経営体は825経営体で、5年前に比べ27.1%増加しました。

農業経営体数

単位：経営体

区分	近畿				兵庫県			
	農業経営体	個人経営体	団体経営体	法人経営体	農業経営体	個人経営体	団体経営体	法人経営体
平成27年	130,179	127,374	2,805	1,543	47,895	46,907	988	423
令和2年	103,835	100,831	3,004	1,986	38,302	37,120	1,182	649
令和7年	81,975	78,708	3,267	2,350	30,419	29,108	1,311	825
増減率(%)								
令和2年／平成27年	△20.2	△20.8	7.1	28.7	△20.0	△20.9	19.6	53.4
令和7年／令和2年	△21.1	△21.9	8.8	18.3	△20.6	△21.6	10.9	27.1

資料：農林水産省「農林業センサス」

「おいしい食べきり」全国共同キャンペーン

農林水産省は、消費者庁、環境省及び全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会と連携し、令和7年12月から令和8年1月まで、外食時の「おいしい食べきり」全国共同キャンペーンを実施します。

今年度は、特別に「すみっコぐらし」とコラボし、ポスターや動画を作成し、親子で年末年始に親子で楽しみながら食品ロスについて考えられるよう呼びかけています。



詳細はこちら▲



★ ★ ★ お店で食べるときのポイント ★ ★ ★

- ★ 料理の量を選ぶお店や食品ロス削減に配慮したお店を選ぶ
- ★ 食べられる分だけ注文しよう
- ★ 料理をおいしく残さず食べきろう
自分で食べきれない分はみんなで分けよう
- ★ どうしても食べきれない場合は持ち帰ろう



地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL : 078-331-5924 Email: hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp